

夕日を愛^めでる旅をしよう

厳しい苦難の日々を経て南アフリカ初の黒人大統領となったネルソン・マンデラは、大統領就任式後のインタビューで「今、何をしたいか」と記者に問われ、「夕方、テラスでデッキチェアにもたれてクラシックを聴きながら夕日を眺めていたい」と答えたという。

みちのく

秋田県男鹿半島戸賀温泉 海と入り陽の宿 帝水

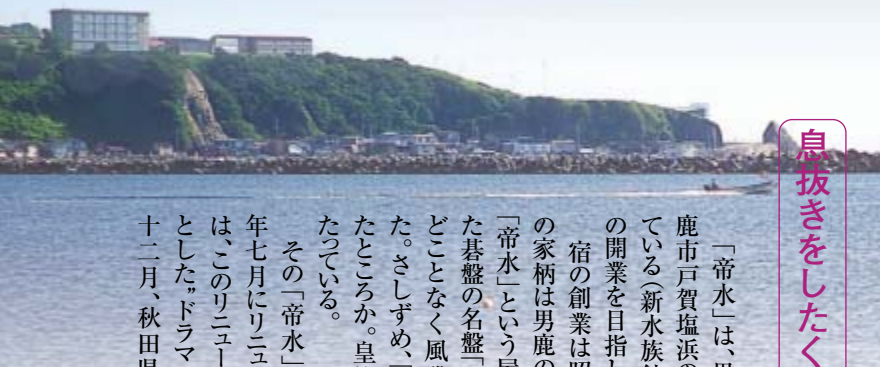
ココロとカラダの癒し旅

美しい夕日は、人の心を癒す。「日本人は古来より夕日を見て感動したり敬けんな気持ちになったりした」という「夕日信仰説」を唱える宗教学者もいる。

“夕日”をキーワードにする旅も面白いのではないだろうか。沈みゆく夕日を眺めながら食事を楽しむ、あるいは露天風呂に浸かり、あるいは、ただ黙々と部屋の窓から、海に沈む夕日のスペクタクルを楽しむ旅。

夕日を楽しむ旅の宿なら、男鹿半島の「海と入り陽の宿 帝水」をお薦めしたい。ここはまさに夕日を愛^めでるためにあるような宿だ。

戸賀湾を見下ろす高台に帝水は建つ



「帝水」は、男鹿水族館があった男鹿市戸賀塩浜の、海岸段丘の上に建っている（新水族館は同じ場所でも来年夏の開業を目指して建設中）。宿の創業は昭和四十一年。創業者の家柄は男鹿の素封家として知られ、「帝水」という屋号も創業者が所有した碁盤の名盤「帝水」に由来するなど、どことなく風雅の趣のある宿であった。さしずめ、「男鹿の奥座敷」といったところか。皇族の利用も幾度かにわたっている。

その「帝水」が、装いを一新して今年七月にリニューアルオープンした。実は、このリニューアルオープンにはちょうどした「ドラマ」があった。平成十三年十二月、秋田県沿岸部を襲った低気圧の暴風雪によって、帝水は休業に追い込まれるほど建物に甚大な被害を受けていたのだ。一時はそのまま廃業することも考えられていたようだが、この宿の伝統の灯を消したくないと願う多くの人の奔走で、約一年半のプランを経て新しく生まれ変わったというわけだ。

息抜きをしたくなったらこの宿

「モダン和風」がコンセプトという建物のイメージも斬新で、客室はすべてオーシャンビュー。大きく開かれた窓からは、居ながらにして海に沈む夕日を眺めることができる。大浴場や露天風呂も海に面している。風呂はナトリウム塩化物・炭酸水素塩泉の天然温泉。無色透明のきれいなお湯だ。風呂につかりながら海に沈む夕日を眺められる温泉は全国に何カ所かあるが、いずれ帝水の名もそんな宿の一軒としてしばしば耳にする日が来るだろう。

宿泊施設らしからぬ帝水の外観



リゾートホテルのモダンさと日本旅館のテイストが融合されたエントランス



宿の前には海を眺められる公園もある。下駄をつかってぶらりと出かけてみよう



海を間近に感じられる露天風呂



天然温泉が引かれた大浴場。海に面して一面のガラス張り。時間とともに移ろっていく海の表情を湯船から眺めたい



客室は全室オーシャンビュー。大きな窓の向こうは日本海



客室には「玉手箱」が用意されている。いわば、夕食時間までの「おやつ」



八望台の展望台。二の目潟と戸賀湾が見える

帝水に泊まって男鹿の休日を楽しむ時に、ぜひお薦めしたいのが遊覧船での海岸巡りだ。男鹿半島は近年道路も整備されて、ドライブだけでも半島内の観光スポットを多く訪ね歩くことはできるが、海上から眺める半島西海岸の雄大な景観は、見ごたえたっぷり。長く人々の往来を拒み続けた断が絶壁の険しい地形には圧倒させられる。遊覧船は帝水の建つ高台の直下にある桟橋から発着する。

どつぷりと“男鹿”に浸ろう

「チェックインの午後三時からチェックアウトの午前十時まで、のんびりと館内でお過ごしいただきたいと思います」と、支配人さんは話していた。

「チェックインの午後三時からチェックアウトの午前十時まで、のんびりと館内でお過ごしいただきたいと思います」と、支配人さんは話していた。

この日のお造りは小鯛、岩牡蠣、ウニ、牡丹海老、サザエ



新生「帝水」は、新鮮な旬の魚介料理を味わえる宿でもある。今回のオープンに際して宿では、長年懐石料理を手掛けてきた料理長を気仙沼から迎えている。全国各地の良質な食材に精通している料理長は、男鹿の海で取れた魚介類を中心にしながらも、例えばウニやアワビは三陸産のものを取り寄せるなど、妥協のない食材選びをしている。その季節の一番おいしい海のものを食べたくなったら、帝水はぜひ覚えておきたい宿だ。料理のポリシーもたっぷりなので、宿に泊まる当日は少しおなかを空かせておくのがいいだろう。目で日本海の夕日を愛でて、舌で旬の海の幸を味わえる帝水は、遠来の客人が秋田の魅力を一十二分に堪能できる宿の一軒である。そうして、秋田に住んでいる自分たち自身も、ちょっと息抜きをしたくなった時に、隠れ家的に使ってみよう。



朝食も海の宿らしい献立



朝、窓の向こうを北海道に向かうフェリーが横切っていく



①



②

- ① 真鯛のかぶと煮
- ② アワビの踊焼き
- ③ ウニ御飯せいろ蒸しとざっぱ汁
- ④ 三梨牛のステーキ



③



④



広大な芝生の海岸段丘が印象的な入道崎。



戦後、進駐軍の飛行場がつくられたこともあったとか。ここも夕日のビューポイント



遊覧船からしか見られない
奇景・大棧橋(だいさんきょう)



海賊伝説の残る孔雀の窟
(こうじゃくのいわや)



旧加茂青砂小学校前



寒風山パノラマライン



入道崎八望台道路



また、男鹿といえば「なまはげ」。真山神社近くにある「なまはげ館」と「男鹿真山伝承館」もぜひ訪れたい。男鹿半島全域に伝わる大みそかの民俗行事のなまはげは、今や全国的に有名なが、「なまはげ館」では映像で実際のなまはげ行事の様子を見られるほか、男鹿の各地区で実際に使われていたなまはげの面が展示されていてなかなか興味深い。特にお薦めなのが隣接する男鹿真山伝承館で催されている「なまはげ行事」の再現。伝承館は茅葺きの曲家民家を移築したもので、四月から十一月までの毎日、この伝承館の座敷を使って真山地区のなまはげ行事の様子がリアルに再現されている。その迫力には、本当に泣き出す子供もいるほど。男鹿探訪には絶対にはずせないスポットだ。

(文：写真Ⅱからとりゆつて) 秋田市
※一部写真は帝水提供



遊覧船で海上からの
景観を堪能する

TEISUI

施設のご案内

- 収容 200名様
- 客室数 41室
北の風(新館)17 [内特別室1]
西の風(本館)24
- 駐車場完備
- 男女大浴場、男女露天風呂
- 宴会場 大広間(舞台付き150畳)、中広間(21畳3室)、小広間(15畳5室)
- コンベンションホール
- ギャラリー
- 屋外バーベキューハウス
- チェックイン 15:00
チェックアウト 10:00

お一人様1泊2食付

10,000円より(税別)
※平日・西の風・4名様以上

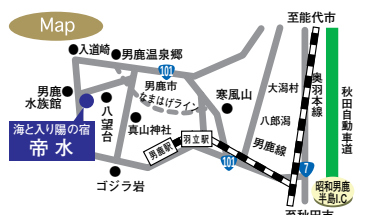
■交通のご案内

電車: JR男鹿線羽立駅から
送迎バスで25分
お車: 秋田自動車道・昭和男
鹿半島I.C.から車で1時間

なまはげ習俗を実体験 できる男鹿真山伝承館



大みそかのなまはげ行事がリアルに
再現される。迫力に泣き出す子も



国定公園・男鹿半島 政府登録国際観光旅館
戸賀温泉

〒010-0673 秋田県男鹿市戸賀塩浜
TEL.0185-37-2331 Fax.0185-37-2458

ホームページアドレス <http://www.teisui.com>

ドライブ・インプレッション

今回の取材車は 日産フェアレディZ



日本を代表する生粋の高性能スポーツカー。加速性能や坂道でのパワフルな走りっぷりは、クルマ好きやドライブ好きにはたまらない魅力だ。男鹿半島のようにカーブやアップダウンの多い道でも走るのが楽しくなってくる。見た目の印象はインパクトがあって大きく感じられるが、狭い道でも意外取り回しはスムーズだった。発表直後に殺到した予約の大半は40代以上の人からだったという。まさに「大人ののためのスポーツカー」というコンセプト通り。大人がカッコよく乗りこなしたい2シーターだ。

(取材車提供/日産プリンス秋田)